作／アリソン・アトリー　翻訳／石井桃子・中川李枝子「グレイ・ラビットのおはなし」岩波少年文庫刊

スキレルとヘアとグレイ・ラビット

英国の森に暮らす小さな動物たちの物語

森には暮らしに必要なものが全てあるけれど、
恐ろしいイタチや獲物を探すフクロウもいて
油断できません。
危険をはらんだ日常を生きる知恵と力はどこで
生まれ育まれるのでしょう。
片手遣いの人形達が静かに問いかけます。

脚色・演出・美術／山根 裕子
音楽／足立 裕子
照明／丸山 昌彦　舞台製作／大澤 直
美術製作／ひぽぽたあむ・山根 恵子

主な出演者／永野 むつみ・大澤 直・海老原 卓治

一幕目

グレイ・ラビットはリスのスキレル、大ウサギのヘアと森のはずれの家で暮らしています。夜明け前から暖炉に火をおこし食事の支度をします。時には人間の畑にニンジンを採りにいったりもします。ある日「自分たちの食べるものは自分たちで作りたい」と願ったグレイ・ラビットは、かしこいふくろうを訪ね、「種をまくこと」を教わります。その「種」を手に入れている間にスキレルとヘアはイタチに捕えられます。しかしグレイ・ラビットは反対にイタチをかまどに入れ、二人を連れ帰ります。

二幕目

スキレルとヘアはもちろんのこと、牛乳屋のハリネズミ、コマドリの郵便屋やモグラのモルデイまでもが知恵と力をかし、ついにしっぽは元通りになります。

人形劇化するにあたっては

生産手段を持たない者の、略奪ともいえる暮らしぶりを含めて「生きることの厳しさ」と喜び、美しい英国の森が生き生きと描かれている原作の世界を損ねないことを心がけました。グレイ・ラビットの献身、3人の関係、問答無用で襲いかかるいたちと、「約束」により話し合いが成立するふくろうとの付き合い方の違い、等など原作に描かれている世界への「なぜ?」は山積みです。しかし私たちは疑問は疑問のままで皆さんにお届けしたいと思います。私たちの仕事は人生を説くのではなく問うことだと思うからです。ご覧いただいた後誰かと語りたくなる人形劇です。

人形劇団
ひぽぽたあむ

人形劇団ひぽぽたあむの人形劇はおもに片手使いの人形で演じられます。俳優は衝立の後ろに隠れていて、観客の皆さんには人形しか見えません。人形は演技者の技と観る人の想像によって生き生きと動き出します。生の人間ではない「人形」だからこそかえって人間の世界を深く描きだすことが可能になります。私たちはそこに人形劇ならではの世界があると信じています。

〒183-0016 東京都府中市八幡町2-19-6オークヒルズ府中303　TEL 042-369-1246　FAX 042-369-0644
E-mail hipopo@io.ocn.ne.jp　URL http://hipopotaamu.com